

# 西洋古典と現代——ホメロスの逆襲

小川 正廣 [名古屋大学文学研究科 最終講義 2017/2/14]

## 序

ホメロス Homeros——前 8 世紀頃の人。出身地・血統など伝記的事実は不明。  
最古で最大のギリシア叙事詩人(『イリアス』『オデュッセイア』)

### 1. 現代のホメロス研究——ホメロスは「西洋」の古典か？

文学史上の「ビッグバン」  
ホメロスの詩は一人の作家の作か？  
ホメロスは存在したか？  
ホメロス詩は非ギリシア的・オリエント的要素を多分に含む。

### 2. ホメロスを「歴史資料」とする現代の研究は暗礁に乗り上げている

シュリーマン以来の古代ギリシア史研究  
歴史主義的古代学(Alttertumswissenschaft)の限界  
太古からの口誦詩(oral poetry)の伝統  
歴史研究の「標本」にされたホメロス  
※文学作品の普遍性は創作の時点からすでに存在し、歴史的遠隔化と特殊化によっては解明できない。  
※ホメロスの徹底的な匿名性は、作品の時間的・空間的限定を拒否し、その普遍性を保証する。  
※「ホメロスは、発見されたその瞬間に、人類の前から姿を消した。」

### 3. 幻のホメロス像

古代～中世のギリシア世界のホメロス——空気のように「在って無きがごとく」存在  
ギリシア民族の護符・アイデンティティの拠り所  
古代・中世・近世の西欧世界のホメロス——ローマ詩人ウェルギリウスの模範、古典の伝統の始祖  
ルネッサンスの人々の失望、「悪魔の叙事詩」  
「結局ホメロスはウェルギリウスの作家でない」ことの発見

### 4. 現代の「ホメロスの逆襲」

17～18 世紀の古代派・近代派論争は棚上げにされ、19 世紀の「ホメロス問題」と歴史主義的研究へ  
19 世紀のニーチェの反論——「恐ろしくも美しいゴルゴンの首」(「ホメロスと古典文献学」1869 年)  
20 世紀のシモーヌ・ヴェイユ(ユダヤ系哲学者)の考察(「『イリアス』あるいは力の詩篇」1939-40 年)  
——ギリシア叙事詩の魂を構成するものは「ネメシス」(nemesis)、すなわち勝者の「力の乱用を必然的に罰する幾何学的厳密さにのっとった懲罰」である。「力」は敗者を「石化」と同時に、その陶醉作用によって勝者をも「石化」し破滅させる。戦争をとらえる「並はずれた公正さ」。

## 結び

- ① 純粋な「西洋」古典の枠に閉じ込めるには、ホメロスは混じりけが多く、体も精神も規格外で大きすぎる。
- ② そのため西洋人は、ホメロスを古典の殿堂の最奥座に祀り上げ、さらに近現代には「ホメロス問題」と古代学の旗印の下で、ホメロスを遙かな太古の歴史の中に押し込めようとした。
- ③ しかし、歴史は人類の高漫に対して復讐する。遠い過去に閉じ込められ、半ば博物館の標本と化していたホメロスを現代世界に甦らせたのは、20 世紀の歴史とその歴史的体験そのものであった。

## 参考文献

(単行本)

小川正廣『ウェルギリウス研究—ローマ詩人の創造』京都大学学術出版会、1994年

小川正廣『ウェルギリウス『アエネーイス』—神話が語るヨーロッパ世界の原点』岩波書店、2009年

(論文)

小川正廣「ホメロスの詩と文字使用」、『国立民族学博物館研究報告』9-3、pp.609-630、1984年

小川正廣「ホメロスからウェルギリウスへ—「自由」の意味の転換」、『ギリシア世界からローマへ』、pp.189-222、彩流社、2001年

小川正廣「西洋古典のカノン—初期ギリシアにおけるホメロスの詩の選定をめぐって」、『論集 伝承と受容 (世界)』(「古典学の再構築」研究成果報告集 VI)、pp.60-70、2003年

小川正廣「口誦伝統と文字テキスト—ホメロスをめぐって」、『岩波講座 文学』1、pp.17-39、岩波書店、2003年

Masahiro OGAWA, “War and Peace in the *Iliad* and the *Aeneid*” *The Journal of Greco-Roman Studies*, 36, the Korean Society of Greco-Roman Studies, pp.1-22, 2009年

小川正廣「古代叙事詩における戦争と平和—ホメロスとウェルギリウス」、『名古屋大学文学部研究論集 文学』55、pp.1-29、2009年

小川正廣「ホメロスの環は閉じられない—古代叙事詩の再生をめぐって— (1)」、『名古屋大学文学部研究論集 文学』61、pp.9-36、2015年

小川正廣「ホメロスの環は閉じられない—古代叙事詩の再生をめぐって— (2)」、『名古屋大学文学部研究論集 文学』62、pp.1-36、2016年

小川正廣「ホメロスの復権とアキレウスの盾」、『図書』807、pp.28-32、岩波書店、2016年

小川正廣「ホメロスの叙事詩の評価をめぐって—古代から現代までの受容の問題—」、『続 英雄詩とは何か』(中央大学人文科学研究所研究叢書 64)、pp.51-88、2017年